

地方道路交付金委託(館山大貫千倉線) 埋蔵文化財調査報告書 2

— 館山市長須賀条里制遺跡(5) —

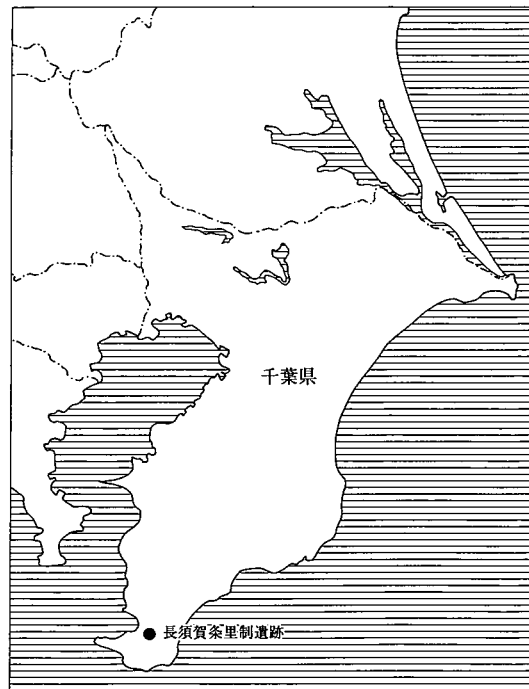
平成21年 3 月

千葉県 県土整備部
財団法人 千葉県教育振興財団

地方道路交付金委託(館山大貫千倉線)

埋蔵文化財調査報告書 2

たてやましながす かじょうりせい
— 館山市長須賀条里制遺跡(5) —



序 文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第623集として、千葉県県土整備部の地方道路交付金委託（館山大貫千倉線）道路改良事業に伴って実施した館山市長須賀条里制遺跡（5）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、縄文時代の海岸線や古墳時代後期の溝が発見されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成21年3月

財団法人千葉県教育振興財団
理事長 福島 義弘

凡 例

- 1 本書は、千葉県県土整備部による地方道路交付金委託（館山大貫千倉線）道路改良事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県館山市下真倉36-1番地ほかに所在する長須賀条里制遺跡(5)(遺跡コード 205-002-5)である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県県土整備部の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査から整理作業、本書の執筆・編集に至るまで、上席研究員 半澤幹雄が担当し、実施期間等は本文中に記載した。
- 5 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、千葉県県土整備部安房地域整備センター、館山市教育委員会の御指導・御協力を得た。
- 6 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
 - 第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図 「安房古川」(NI-54-26-2-2)
 国土地理院発行 1/25,000地形図 「那古」(NI-54-26-2-4)
 国土地理院発行 1/25,000地形図 「千倉」(NI-54-26-3-1)
 国土地理院発行 1/25,000地形図 「館山」(NI-54-26-3-3)
 - 第2図 館山市役所発行 1/2,500地形図 NO.26
 館山市役所発行 1/2,500地形図 NO.27
- 7 調査地周辺の航空写真(図版1)は、京葉測量株式会社が昭和42年3月から4月に撮影したものを、1≒10,000に拡大・合成して使用した。
- 8 本書で使用した図面の方位はすべて座標北である。測量値については道路改良工事設計図面等との整合性をはかるために日本測地系を使用した。なお、世界測地系に基づく数値は下表のとおりである。下表の数値は「Web版TKY2JGD Ver.1.3.79」により、パラメーターは「関東.par Ver.2.11」を使用した。
- 9 土層の色調の表記に当たっては、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』2002年版 日本色研事業株式会社を参考にした。
- 10 復元実測が困難な土器については断面図に内・外面の拓本を必要に応じ掲載したが、断面図は右側が外面となることを原則とし、右に外面、左に内面を配した。
- 11 挿図に使用したスクリーン・トーン及び記号の用例は、各図に示したとおりである。

		3-15-331(三級基準点)	25AA-00(トレンチ2・3)	27AE-00(トレンチ1c)
日本測地系 (旧日本測地系) (Tokyo Datum)	X座標	-113,512.769m	-113,480.000m	-113,520.000m
	Y座標	3,869.017m	3,820.000m	3,900.000m
	北緯	34° 58' 36.04547"	34° 58' 37.10971"	34° 58' 35.81035"
	東経	139° 52' 32.56703"	139° 52' 30.63469"	139° 52' 33.78867"
世界測地系 (日本測地系2000) (JGD2000)	X座標	-113,154.910m	-113,122.142m	-113,162.141m
	Y座標	3,574.739m	3,525.723m	3,605.721m
	北緯	34° 58' 48.05353"	34° 58' 49.11757"	34° 58' 47.81847"
	東経	139° 52' 20.95165"	139° 52' 19.01948"	139° 52' 22.17381"

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	遺跡の位置と環境	1
1	遺跡の位置と地理的環境	1
2	遺跡周辺の歴史的環境	1
第3節	調査の概要と経過	3
1	既調査成果の概要	3
2	調査の経過	3
3	調査の方法	6
第2章	検出された遺構と遺物	7
第1節	遺構	7
1	1トレンチ	7
2	2トレンチ	10
3	3トレンチ	10
第2節	遺物	11
1	概要	11
2	土器類	11
第3章	まとめ	12
第1節	縄文時代	12
第2節	古墳時代	12
報告書抄録		巻末

挿図目次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡……………	2	第5図	1トレンチ断面図……………	9
第2図	調査区と周辺の地形……………	4	第6図	2・3トレンチ平面・断面図……………	10
第3図	調査区とトレンチ配置図……………	5	第7図	出土土器類……………	11
第4図	1トレンチ平面図……………	8			

図版目次

図版1	1. 調査地周辺の航空写真	図版4	1. 5 S D 005完掘状況 (南東から)
図版2	1. 調査地遠景 (北西から)		2. 1 c トレンチ北西壁 (南東から)
	2. 調査地遠景 (南東から)		3. 1 b トレンチ北西端 (南西から)
	3. 1 a トレンチ完掘状況 (北西から)		4. 2 トレンチ完掘状況 (南東から)
	4. 1 a トレンチ完掘状況 (北から)		5. 3 トレンチ調査風景 (南東から)
図版3	1. 5 S D 005検出状況 (北西から)	図版5	1. 出土土器類
	2. 5 S D 005完掘状況 (北西から)		

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

千葉県は館山市下真倉地区における地方道路交付金委託(館山大貫千倉線)道路改良事業の開始にあたって、埋蔵文化財の有無と取扱いについて、千葉県教育委員会に照会した結果、かつて発掘調査が実施された長須賀条里制遺跡が所在する範囲に今回の工区が展開することがわかった。その後、取扱いについて慎重な協議を重ねた結果、事業計画の変更が困難なため、記録保存の措置を講ずることとなり、調査は財団法人千葉県教育振興財団に委託されることとなった。

第2節 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置と地理的環境(第1図)

長須賀条里制遺跡の所在する館山市は、東京湾を望む房総半島先端部に位置し、市域中心は東京湾に面する館山平野の西部にあたる。館山平野は通称鏡ヶ浦と呼ばれる館山湾に西面し、北・東・南の三方を丘陵に囲まれた海岸平野である。平野内には南北方向に幾重にも海岸段丘や砂丘列が存在するほか、館山湾に流入する平久里川、汐入川などにより形成された自然堤防が存在し、これらが組み合わさり複雑な地形を呈している。

長須賀条里制遺跡は館山市長須賀・下真倉を中心に所在し、標高約10mの海岸段丘上の後背湿地に営まれた古代条里制遺跡である。

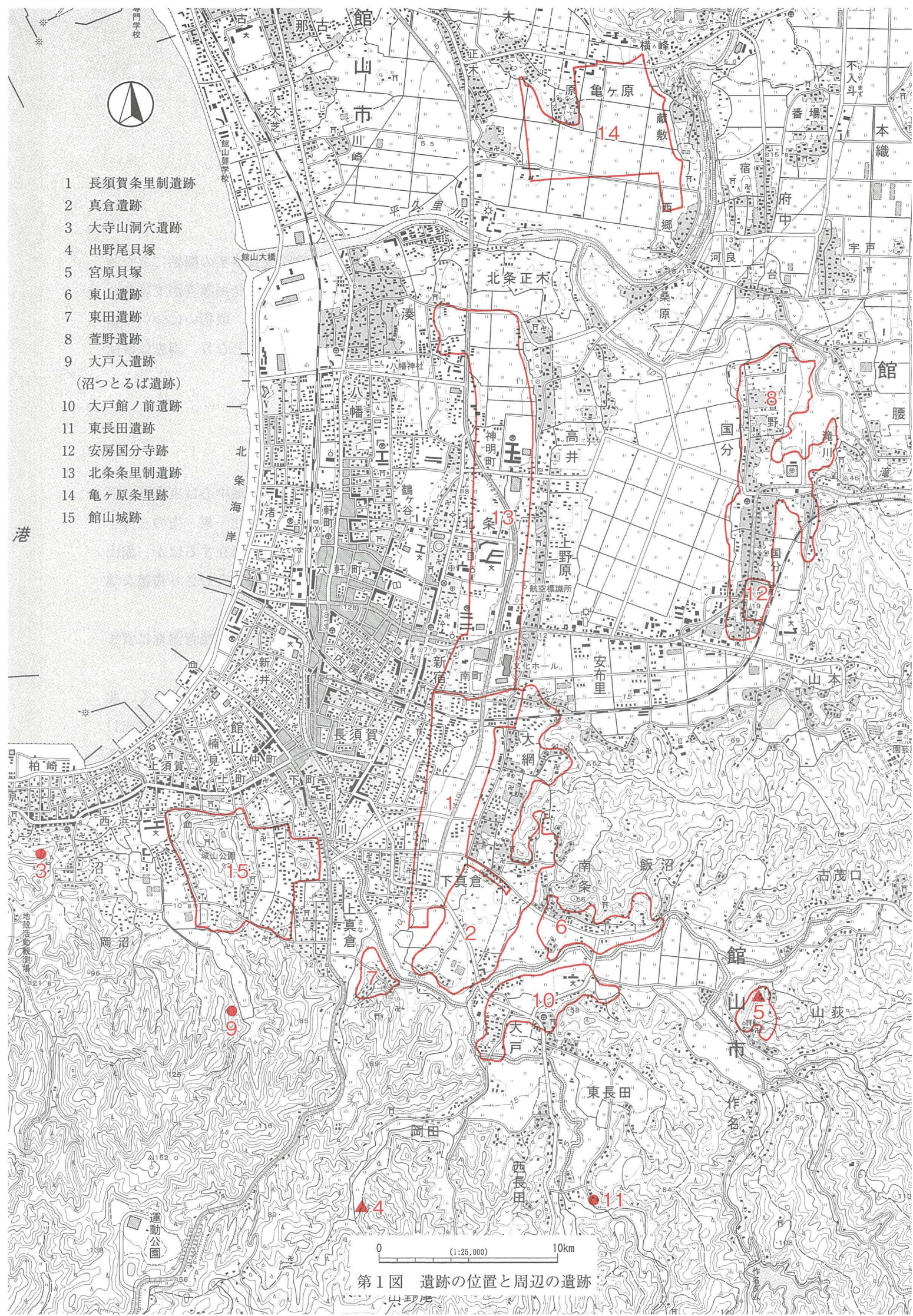
今回の調査地は長須賀条里制遺跡の東縁辺にあたり、南東方向に延びる丘陵南西端の山裾に程近く、北西から南東に延びる調査区は標高約12mから14mと南東に向かって徐々に高くなっている。なお、平成11年度の調査範囲が東西に連続するが、北西方向はさらに標高が低くなり、南東方向も今回の調査区の南西部が最高点となって再び標高が低くなっている。

2 遺跡周辺の歴史的環境(第1図)

長須賀条里制遺跡の周辺に遺跡が認められるのは縄文時代からである。縄文時代の当地では海蝕洞穴が多くみられる。縄文時代中期から後期を主体とする遺物包含層の検出された大寺山洞穴遺跡¹⁾や縄文時代前期の土器が出土した出野尾貝塚²⁾が挙げられる。宮原貝塚では縄文時代中期の炉穴が検出されている³⁾。このほかに遺構は検出されていないが、今回の調査地点の東に位置する東山遺跡では縄文時代早期から晩期の土器片が出土しており、丘陵の斜面崩落に伴うものとして、丘陵上に該期の集落が存在する可能性を指摘している⁴⁾。また、汐入川を挟んで南側に位置する東田遺跡では縄文時代早期から後期の土器片が出土しているが、摩滅したものもあり混入であろう⁵⁾。

弥生時代の遺跡としては、萱野遺跡や東田遺跡などが挙げられる。萱野遺跡では弥生時代後期の環濠や竪穴住居、方形周溝墓などが検出された⁶⁾。東田遺跡では竪穴住居や方形周溝墓、溝状遺構が検出された⁷⁾。

古墳時代の遺跡は数多く確認されており、汐入川を挟んで対岸に位置する東田遺跡は古墳時代後期の集落と大溝が検出され、大溝からは小型の土製品や粗造土器などの祭祀遺物が出土しており⁸⁾、今回の調査地点と時期や内容が近似する部分もあり特筆される。その他の祭祀遺跡として、つとるば遺跡、大戸館ノ



- 1 長須賀条里制遺跡
- 2 真倉遺跡
- 3 大寺山洞穴遺跡
- 4 出野尾貝塚
- 5 宮原貝塚
- 6 東山遺跡
- 7 東田遺跡
- 8 萱野遺跡
- 9 大戸入遺跡
(沼つとるば遺跡)
- 10 大戸館ノ前遺跡
- 11 東長田遺跡
- 12 安房国分寺跡
- 13 北条条里制遺跡
- 14 亀ヶ原条里跡
- 15 館山城跡

0 (1:25,000) 10km

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

前遺跡、東長田遺跡などがあり、集落としては、萱野遺跡などが挙げられる。墓域としては、今回の調査地の西側丘陵の南斜面に南条横穴群がみられ、大寺山洞穴遺跡では丸木舟を転用した舟棺が検出されている⁹⁾。周辺での高塚古墳の例は少ないが、峯古墳や萱野遺跡の前期方墳が貴重な存在である。

奈良・平安時代では、県指定史跡の安房国分寺跡や未だ明らかとはなっていないが安房国府推定地の南房総市府中周辺が平野内に所在する律令期の遺跡として特筆されよう。長須賀条里制遺跡以外の条里制遺跡としては、北側に展開する北条条里制遺跡、亀ヶ原条里跡、下の台条里跡、越越条里跡、上真倉条里跡などが挙げられる。また、東田遺跡や萱野遺跡ではこの時期の住居跡も検出されている。

中・近世では、市指定史跡の館山城跡や稲村城跡などの城館跡が知られているほか、萱野遺跡では掘立柱建物や井戸などが検出されている¹⁰⁾。

第3節 調査の概要と経過

1 既調査成果の概要（第2図）

長須賀条里制遺跡は長大な遺跡であり、調査原因や調査主体が変わりながら数度の発掘調査が実施され、報告書も刊行されている。ここでは既に実施された発掘調査の概要を纏めておく。

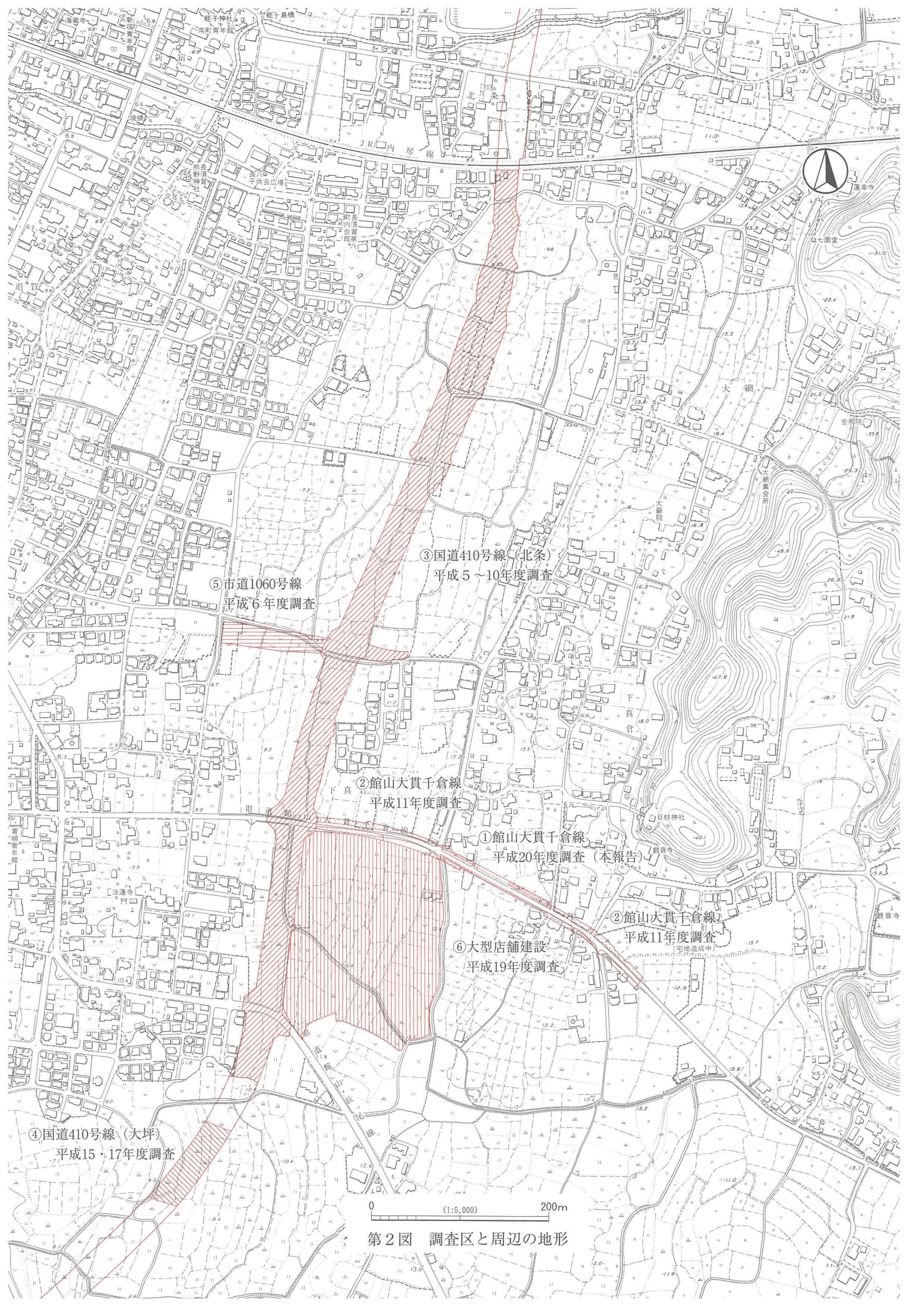
まず、財団法人千葉県教育振興財団が実施したものでは、平成11年度に今回の調査原因と同じ館山大貫千倉線の道路改良事業に伴い、今回の調査地点の東西を調査している（②）。遺構は西側に集中し、古代の条里型水田跡に伴うと判断された溝状遺構や中世の屋敷地の一部と考えられるピット群を検出している¹¹⁾。平成5年度から平成10年度にかけて今回の調査地の西側、遺跡を南北に縦断するように国道410号建設に伴い発掘調査を実施しており（③）、古墳時代の水際祭祀を伴う旧河道や水路、同時代の小区画水田跡、古代の条里型水田跡などを検出した¹²⁾。平成15年度と平成17年度には今回の調査地点の南西で、国道410号建設に伴う調査として長須賀条里制遺跡大坪地区の調査を実施しており（④）、古墳時代後期から古代までの水田及び中世の掘立柱建物などを検出している¹³⁾。

また、他の調査主体が実施した調査としては平成6年度には国道410号（北条）に伴う調査区のさらに西側、今回の調査地点の北西に位置する部分を市道拡幅工事に伴い長須賀条里制遺跡調査会が発掘調査を実施し（⑤）、古墳時代の溝や中・近世の畦畔状の遺構を検出している¹⁴⁾。平成19年度には、今回の調査地点の南西の隣接地を山武考古学研究所が発掘調査を実施し（⑥）、古墳時代後期の竪穴住居や中世の集落を検出している¹⁵⁾。

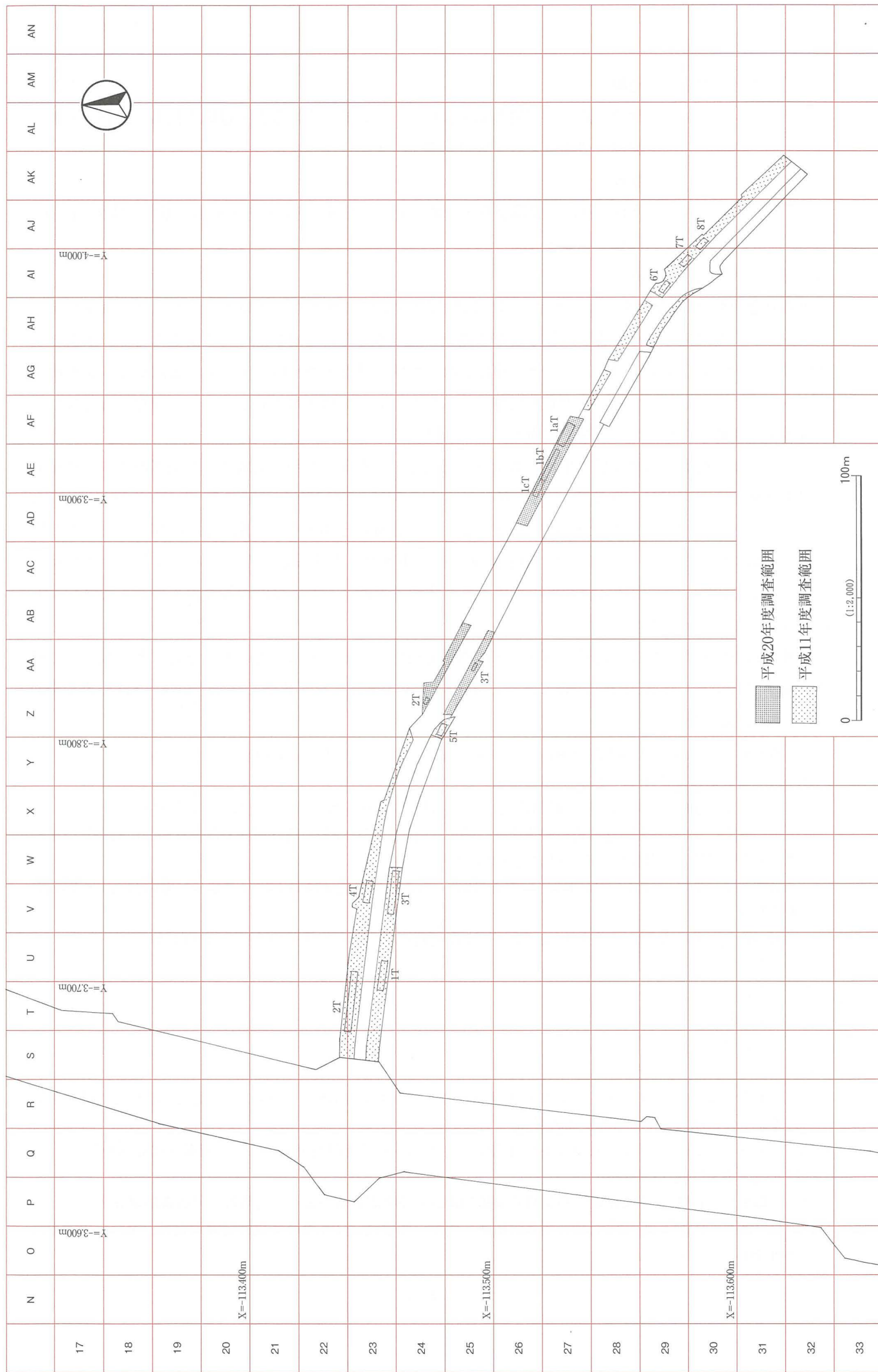
2 調査の経過

長須賀条里制遺跡の発掘調査および整理作業は平成20年度に実施し、報告書を刊行した。発掘調査から整理作業・報告書刊行にいたるまでの調査組織及び担当者は以下のとおりである。

期 間	平成20年11月4日～平成20年11月14日（発掘） 平成20年12月16日～平成21年1月15日（整理）
組 織	調査研究部長 大原正義 中央調査事務所長 折原 繁 担当職員 上席研究員 半澤幹雄



第2図 調査区と周辺の地形



第3図 調査区とトレンチ配置図

内 容 発掘

準備・設営・環境整備・測量・トレンチ・表土除去・遺構等検出・精査・実測・
撮影・遺物取上げ・資料整理
整理
水洗・注記・記録整理・分類・接合・実測・トレース・拓本・撮影・挿図・図版・
原稿・編集・校正・刊行

3 調査の方法（第3図）

調査対象面積は517㎡であるが、調査区は未買収地と現道により大きく3地点に分かれる。東側の部分に1トレンチを設定し、排土場を確保しながら調査するため3回に分けてトレンチ調査を行い、東から順次1aトレンチ、1bトレンチ、1cトレンチと呼称した。西側の現道北側には2トレンチを設定し、現道南側に3トレンチを設定し、トレンチ調査を実施した。2・3トレンチは湧水が著しく十分な調査が行えない点や隣接する現道や住宅等への影響を配慮して、拡張は実施しなかった。

トレンチ及び遺構の図面は事業用地の測量杭を使用し、平成5年度から実施された発掘調査のグリッド設定を踏襲した。大グリッドはX = -113,000m、Y = 3,500mを起点とし、南に1、2、3・・・、東にA、B、C・・・とし、1A、2B、3Cと標記し、小グリッドは北西隅を00として、東に00、01、02・・・と1の位を増し、南に00、10、20・・・と10の位を増し、00～99の小グリッドを設定した。これにより、各グリッドは1A-00などと表記し、同時に北西隅の座標点を意味することとした。今回の調査地点は24Z大グリッドから27AF大グリッドに亘る。

遺構の調査にあたっては、遺構の内容ごとに略号を使用し、その下に3桁の番号を付すとともに、今回の調査が当財団として5次目の調査にあたるため先頭に5を付した。使用した略号は溝：SDのみで5SD001などと表記した。

注1 岡本東三 2003 「大寺山洞穴遺跡」『千葉県歴史資料編2(弥生・古墳時代)』千葉県

2 館山市史編さん委員会 1971 『館山市史』館山市

3 鈴木 昭 2002 「宮原貝塚」『財団法人総南文化財センター年報 No.12-平成11・12年度-』

4 城田義友 2005 『緊急地方道路整備委託(館山大貫千倉線)埋蔵文化財調査報告書-館山市長須賀条里制遺跡・東山遺跡-』財団法人千葉県文化財センター

5 高梨友子 2006 『館山市東田遺跡-国道410号(北条)埋蔵文化財調査報告書2-』財団法人千葉県教育振興財団

6 財団法人千葉県文化財センター 2004 『千葉県文化財センター年報 No.28-平成14年度-』

7 注5に同じ

8 注5に同じ

9 注1に同じ

10 注6に同じ

11 注4に同じ

12 高梨友子ほか 2004 『館山市長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡-国道410号(北条)埋蔵文化財調査報告書1-』財団法人千葉県教育振興財団

13 高梨友子 2006 『館山市長須賀条里制遺跡-一般国道410号道路改築事業(大坪)埋蔵文化財調査報告書-』財団法人千葉県教育振興財団

14 高柳正春 1995 『千葉県館山市長須賀条里制遺跡-発掘調査報告書-』長須賀条里制遺跡調査会

15 折原洋一 2008 『館山市長須賀条里制遺跡-大型店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』山武考古学研究所

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 遺構

1 1トレンチ (第4・5図、図版2～4)

東側調査区に設定したトレンチで、排土場を確保するため3回に分けて調査を実施したため、東南から1aトレンチ、1bトレンチ、1cトレンチと呼称した。スイッチバックのうえ掘削土量も多く、1aトレンチと1bトレンチの間には若干の未調査部分が残っており連続していない。

トレンチ東南端(1aトレンチ)では北東に連なる山塊の縁辺にあたる岩盤層(灰白色泥岩層)を検出した。1aトレンチの上半部に見られる明褐色粘土を含む層は旧土地所有者の話から土を入れ替えたものである。岩盤層の上面縁辺に検出した2条の溝(5SD001、5SD002)は覆土に明褐色粘土粒を含むことから近・現代のものと判断した。

下半部の黄褐色細砂混じり粘土層以下が古い層を残しているものと判断した。岩盤層の下半部は波に洗われたように凹凸が残り、黄褐色細砂混じり粘土層との間に明黄褐色粗砂層が堆積している。この層は1aトレンチの北西端で1m近い厚さを持ち、上部0.6mの範囲では明確な分層も出来なかったことから海成砂層と考えたい。1bトレンチの東半部に於いて検出作業中に縄文土器(第7図1・2)が出土しており、この砂層からの出土である。

トレンチの北西端(1b・1cトレンチ)では、3条の溝状遺構を検出し、東から5SD003、5SD004、5SD005と呼称した。検出面としたにぶい黄色粗砂層の上には黄褐色細砂混じり粘土層が約0.6mの厚さで堆積している。この層から古墳時代後期の土師器片が出土しており、第7図4～9に掲載した。

5SD003 (第4・5図)

5SD003は1bトレンチ西側を南北に横切る溝状遺構である。幅1.48m～1.70m、底面は不明瞭な段を有し、溝内の覆土が盛り上がる凸レンズ状を呈するため畦畔と判断した。畦畔土壌は黒色シルト混じり細砂である。後述する5SD004・005より新しいものと判断される。走行方位は概ねN-31°-Eである。

遺物は出土していない。

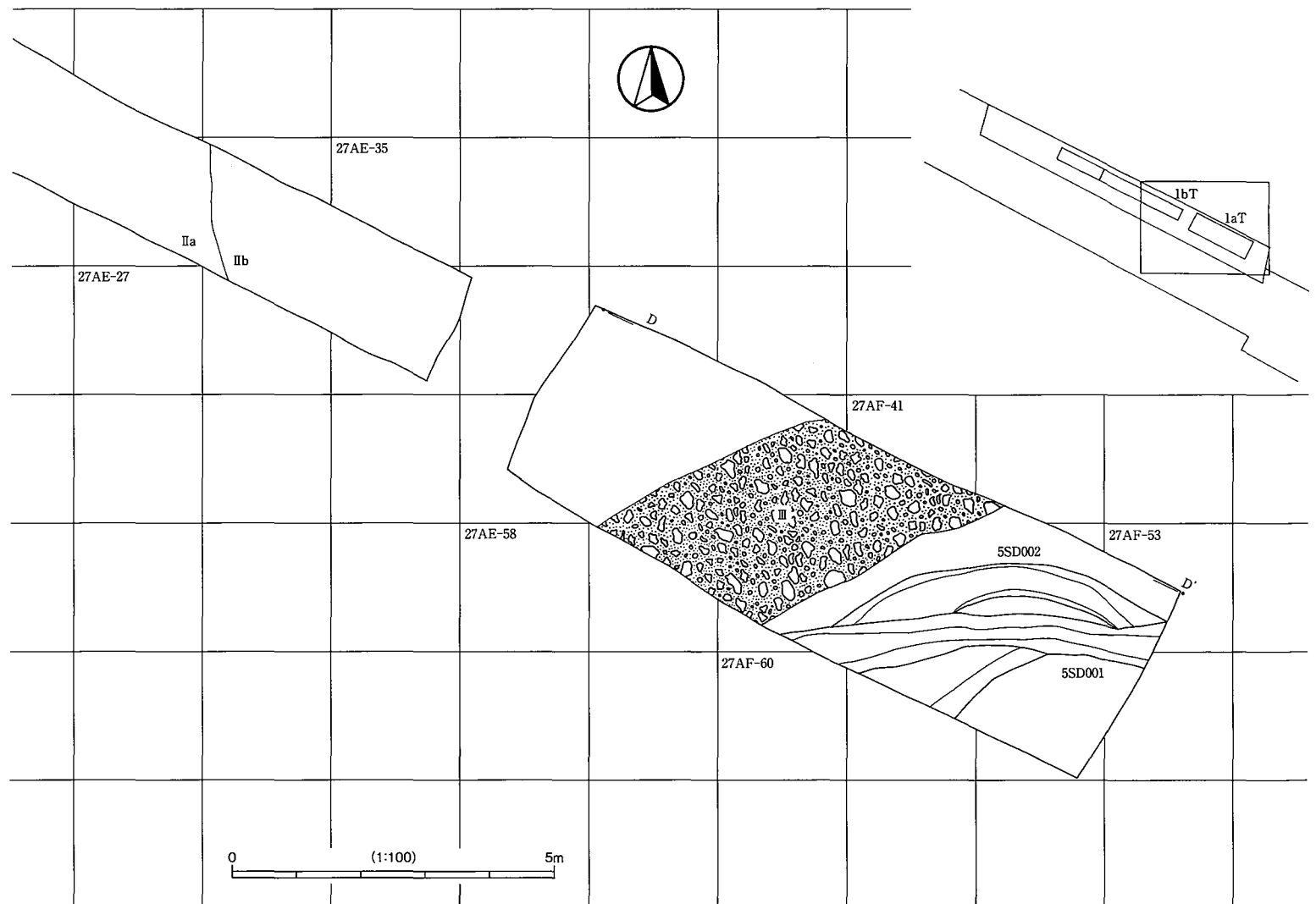
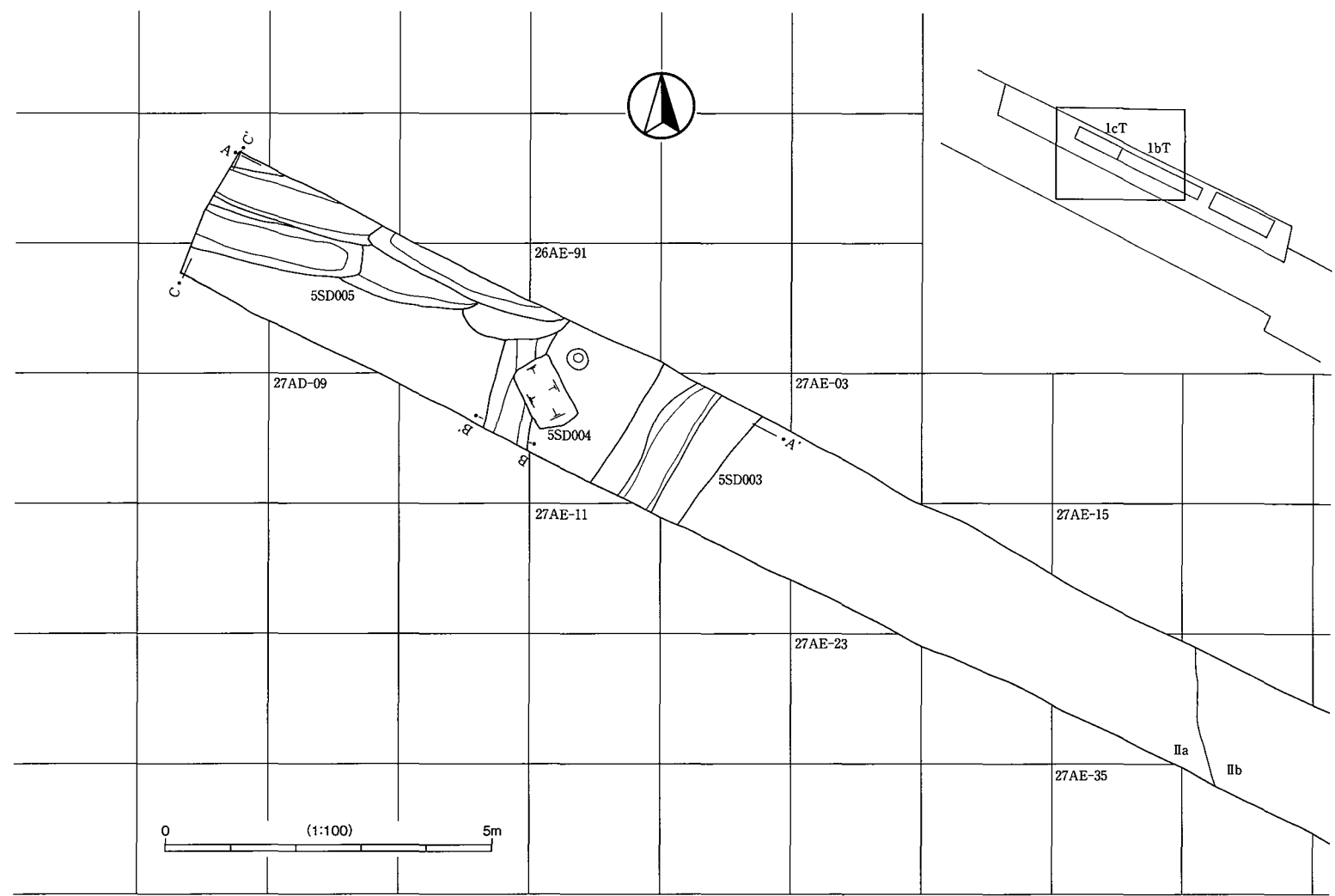
5SD004 (第4・5図)

5SD004は1bトレンチ西端を南北に横切る溝である。北側は5SD005により切られる。幅0.65m～0.75m、断面皿状を呈する。覆土は黒褐色粘土混じり細砂である。走行方位はN-12.5°-Eである。後述する5SD005の一部の覆土に近似するため同時期の可能性も考えられる。

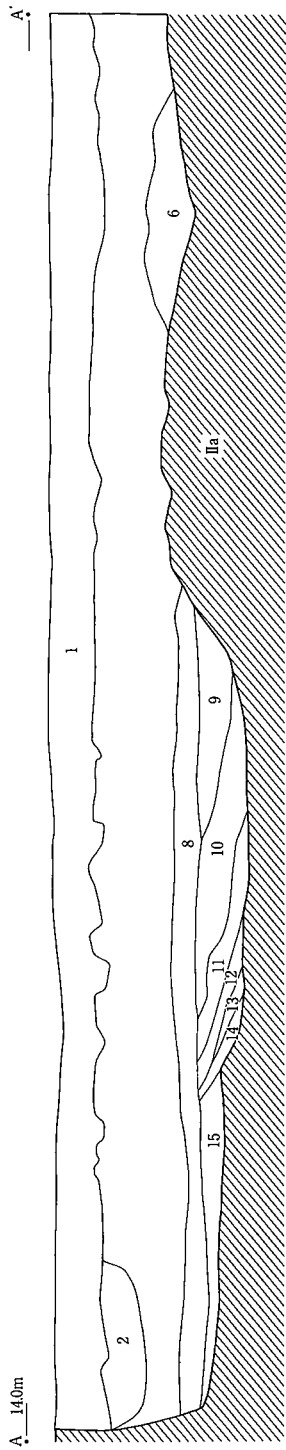
遺物は出土していない。

5SD005 (第4・5図、図版3・4)

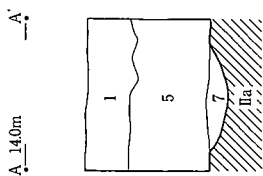
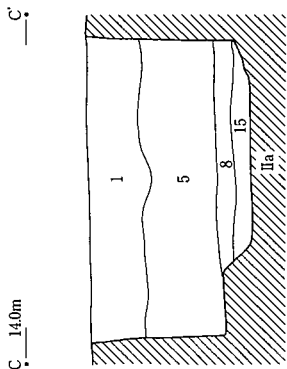
5SD005は1bトレンチ北西端から1cトレンチにかけて検出した東西方向の溝である。幅1.40mであるが、2条の溝が並行しており、1条の幅は概ね0.70mである。また、数m毎に深さが異なるような構造を呈しており、特に北東部の溝は方位や覆土が他の部分と異なり、掘り直しの可能性も高い。また、検出状況では南壁に鋤痕跡もしくは鋤の巻き上げ痕跡のような凹凸が見られる。さらに溝の上層にのみ黒褐色粘土混じり細砂層が認められ、北側に広がる可能性も考えられることから、水田遺構の南辺であった可能性



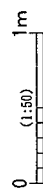
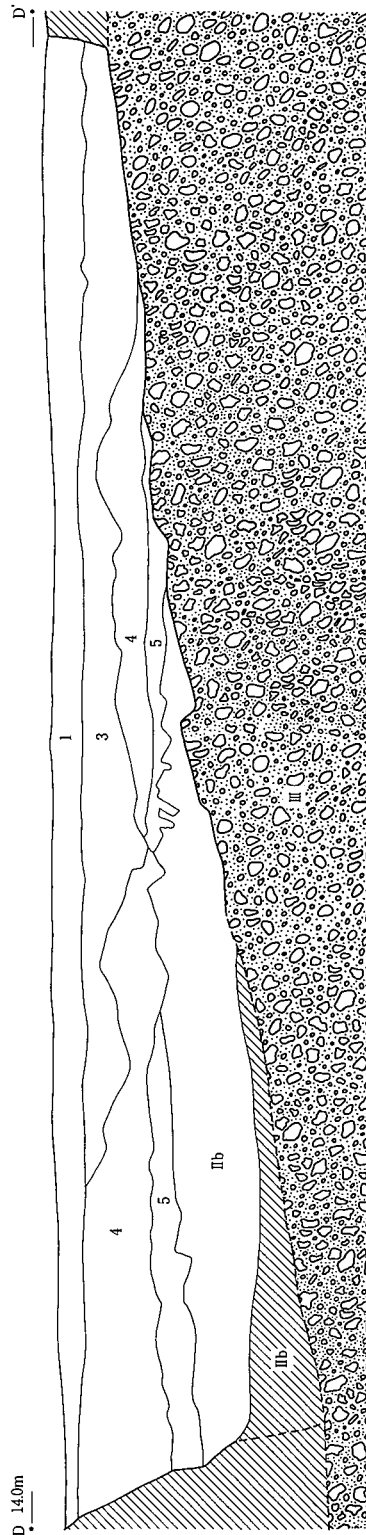
第4図 1 トレンチ平面図



- 1 2.5Y5/3 黄褐色細砂混じり粘土
- 2 2.5Y5/2 暗灰色細砂混じり粘土
- 3 10YR4/1 褐色細砂混じり粘土
- 4 10YR4/1 明褐色 (7.5YR5/6) 粘土アロックを含む
- 5 2.5Y4/1 明褐色 (7.5YR5/6) 粘土粒を含む
- 6 10YR2/1 灰白色 (10YR8/2) 泥岩盤を含む
- 7 10YR3/1 黒色シルト混じり細砂
- 8 2.5Y3/1 黒褐色粘土混じり細砂
- 9 2.5Y4/1 灰色砂
- 10 2.5Y4/2 暗底灰色砂
- 11 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂
- 12 2.5Y3/1 黒褐色砂
- 13 10YR4/2 灰黄褐色砂
- 14 2.5Y4/2 暗底灰色砂
- 15 2.5Y2/1 黒褐色粘土混じり細砂



基礎層
 II a 2.5Y6/4 にぶい灰色粗砂
 II b 10YR6/8 明黄褐色粗砂
 III 10YR8/2 灰白色泥岩層



第5図 1トレンチ断面図

も考えられる。方位はN-77°-W（直交方位N-13°-E）であり、北西側の深い部分が5SD004を切るが、他の部分の覆土や走行方位から同時期であった可能性が考えられる。

遺物は土師器片が数点と粘土塊や炭が出土し、粗造土器（第7図10）、壺もしくは鉢の底部片（第7図11）、高杯の脚部（第7図12）を図示した。

2 2トレンチ（第6図、図版4）

西側調査区北半部に設定したトレンチである。溝1条を検出し、5SD006と呼称して精査を行ったが、湧水が著しく略測図を作成して調査を終了した。遺構を確認した基盤層は未固結のオリブ黄色砂層で若干グライ化し、表土は現耕作土を含む暗灰黄色細砂層である。トレンチ内から土師器片1点が出土しているが、小片であり図示できなかった。

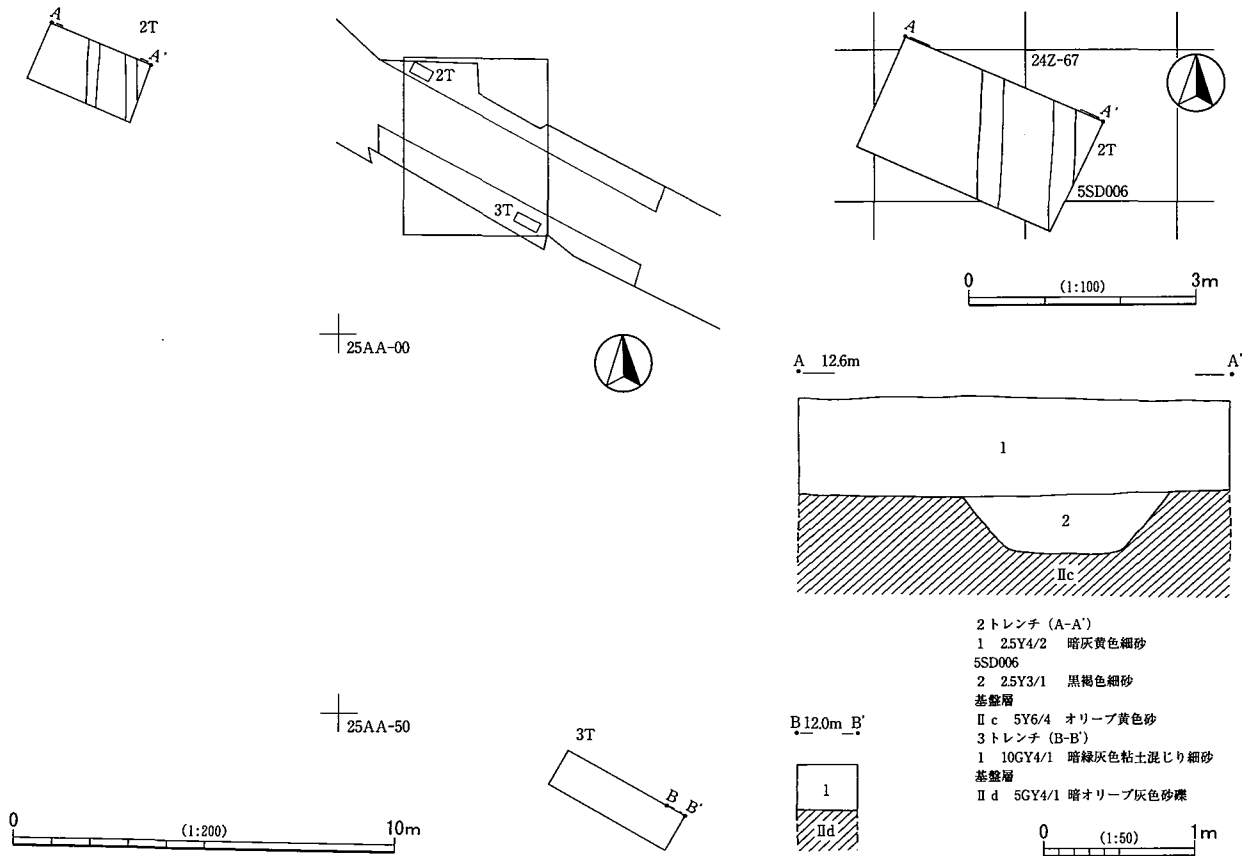
5SD006（第6図、図版4）

5SD006は2トレンチを南北に横切る溝である。幅1.26m、深さ0.42m、断面は逆台形を呈している。覆土は黒褐色細砂層でラミナ状の堆積が認められ、溝の壁面及び底面は酸化鉄の沈着により赤く変色している。溝の走行方位はN-2.5°-Eである。

遺物は出土していない。

3 3トレンチ（第6図、図版4）

西側調査区南半部に設定したトレンチである。現況が水田であり、2トレンチとの標高差が表土面で既に0.6m程ある。重機による掘削を実施したが湧水が著しく遺構も認められないため略測図を作成して調査を終了した。基盤層は暗オリブ灰色砂礫層、表土は現耕作土層で、暗緑灰色粘土混じり細砂層である。何れもグライ化が著しい。



第6図 2・3トレンチ平面・断面図

第2節 遺物

1 概要

今回の調査では縄文時代から奈良・平安時代までの土器類が61点、516.97g出土した。内訳は縄文土器（後期中葉加曾利B式）2点、50.11g、弥生土器4点、42.64g、古墳時代から奈良・平安時代土師器55点、424.24gである。古墳時代から奈良・平安時代の土師器としたものは、実測掲載可能な遺物の様相からみて古墳時代後期前半（6世紀前半）のものが主体であると考えられる。

なお、図示していないが粘土塊1点、8.32g、軽石1点、18.41gが出土した。

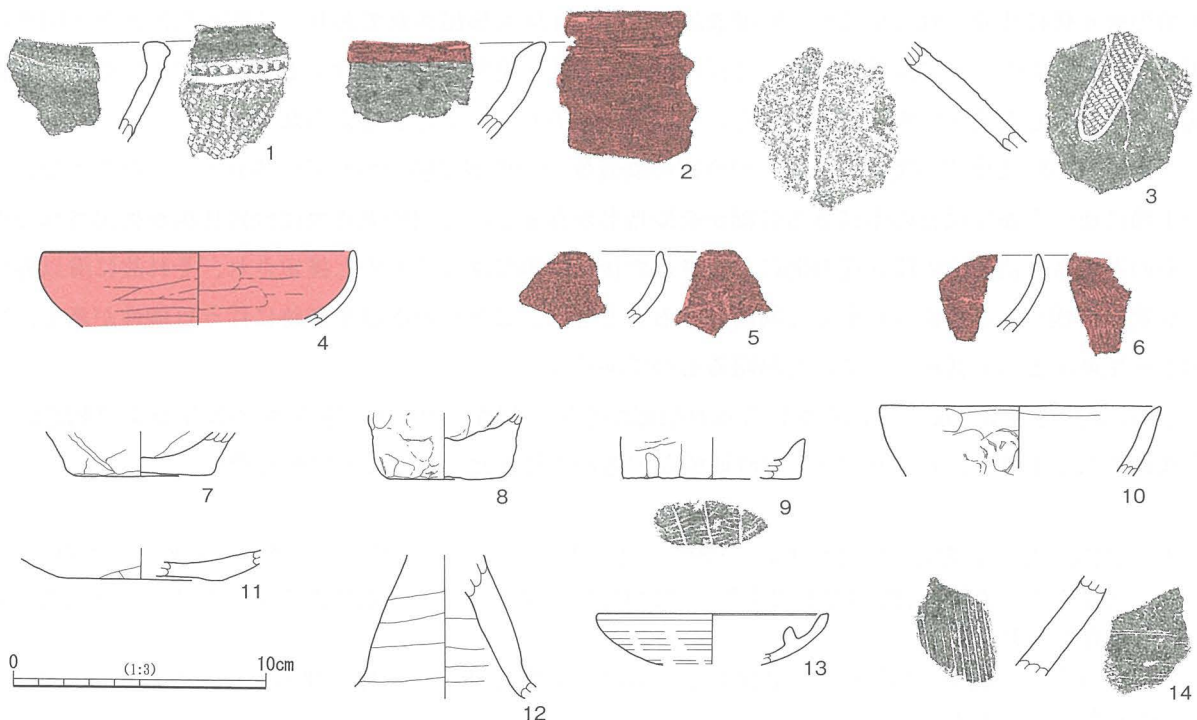
2 土器類（第7図、図版5）

第7図1・2は1bトレンチから出土した縄文土器で、縄文時代後期中葉の加曾利B式に相当する。1は口縁部片で口縁部には条線と刻みが施される。波状口縁を呈する深鉢と思われる。2も口縁部片であるが、内外面は丁寧に磨かれ、外面と口唇部内面に赤彩されることから浅鉢と思われる。

第7図3は1bトレンチから出土した弥生土器で、結紐文の施された壺の胴部片であり、中期後半の宮ノ台式のものである。内面の剥落が著しい。

第7図4～12は古墳時代の土師器である。4～8は1bトレンチ、9は1cトレンチ、10～12は1cトレンチ内の5SD005から出土した。4～6は杯の口縁部片である。内外面に赤彩が施される。7～9は粗造土器の底部片である。9は底部に木葉痕が見られる。10は粗造土器の口縁部片と思われる。11は壺乃至は鉢の底部片であろう。12は高杯脚部である。杯部との結合はソケット状の突起によるものと思われ、内外面ともに横方向のナデが見られる。

第7図13・14は1aトレンチから出土した近世陶器である。13が志戸呂産灯明受け皿、14が瀬戸産播鉢である。



第7図 出土土器類

第3章 まとめ

第1節 縄文時代

縄文時代の遺物としては後期加曾利B式土器2点が出土している。調査区の南東端では、山塊の続きと思われる固結した灰白色泥岩層が検出されており、上部平坦面は後世の開発等により平滑になっているものの、砂層に覆われた緩斜面部は流水で洗われたような様相を呈しており、ある時期の海岸線と判断した。

この地域の海岸段丘は大地震による隆起に伴って形成されたことがわかっており、大きく4面に分類されている。高位の段丘から沼Ⅰ面(23m~26m)、沼Ⅱ面(16m~21m)、沼Ⅲ面(9m~14m)、沼Ⅳ面(5m~6m)と呼称している。さらに各面の離水時期については、6,150年前(沼Ⅰ面)、4,350年前(沼Ⅱ面)、2,850年前(沼Ⅲ面)、270年前(沼Ⅳ面)と推定されている¹⁾。

今回の調査地点では上部平坦面の標高が13.7m以上、下部平坦面にあたる砂層下の泥岩層は12m以下と考えられる。上部平坦面が沼Ⅱ面、下部平坦面が沼Ⅲ面と推定され、砂層は沼Ⅱ面が陸地化した後の小屋に僅かな砂浜が形成され、その中に縄文後期の土器が含まれていたと考えられる。

第2節 古墳時代

今回の調査地点で出土した遺物の大半が古墳時代のものである。明確な須恵器模倣杯が認められないが、薄作りで口縁部が内湾し、赤彩を施した定型化された様相を呈していることから古墳時代後期のものと判断される。また、粗造土器が含まれることも該期の可能性を示唆するものであろう。粗造土器は、汐入川を挟んで南西に位置する東田遺跡の溝状遺構内から多量に出土しており、形態分類が行われ、溝内への祭祀遺物の投棄(祭祀行為)の可能性が指摘されており、共伴する土師器杯等から6世紀後半から7世紀前半頃の暦年代に比定されている²⁾。東田遺跡では竪穴住居も検出されており、該期の集落とその周辺の様相を窺わせるものとして注目される。今回の調査地点出土遺物は少量ではあるが、前述の特徴から6世紀前半を中心とした暦年代の可能性が高く、東田遺跡に先行することが考えられる。

さらに古墳時代後期の竪穴住居などが今回の調査地の南西側で検出されているが³⁾、このような成果は第1節に述べた海岸段丘の中にさらに細かな微地形が存在し、今回の調査地は竪穴住居が検出された南北方向の浜提帯と沼Ⅱ面の段丘崖の間に形成された後背湿地にあたるものと推定され、それ故に溝以外の明瞭な遺構が検出されなかったものと判断されるとともに、これらの溝は生産跡に伴う可能性が高く、後背湿地を生産域として活用したことを物語るものであろう。

なお、5世紀中頃~後半に比定される水際祭祀が今回の調査地点の北に位置する長須賀条里制遺跡内から検出されており⁴⁾、同一の段丘上で時期的な占地の変化が窺われることは興味深い。

注1 財団法人千葉県史料研究財団編 1997 『千葉県の自然誌 本編2 千葉県の大地』千葉県

2 高梨友子 2006 『館山市東田遺跡-国道410号(北条)埋蔵文化財調査報告書2-』財団法人千葉県教育振興財団

3 折原洋一 2008 『館山市長須賀条里制遺跡-大型店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』山武考古学研究所

4 高梨友子ほか 2004 『館山市長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡-国道410号(北条)埋蔵文化財調査報告書1-』財団法人千葉県文化財センター

写 真 图 版



1. 調査地周辺の航空写真 (昭和42年撮影 S = 1 ≒ 10,000)



1. 調査地遠景（北西から）



2. 調査地遠景（南東から）



3. 1 a トレンチ完掘状況（北西から）



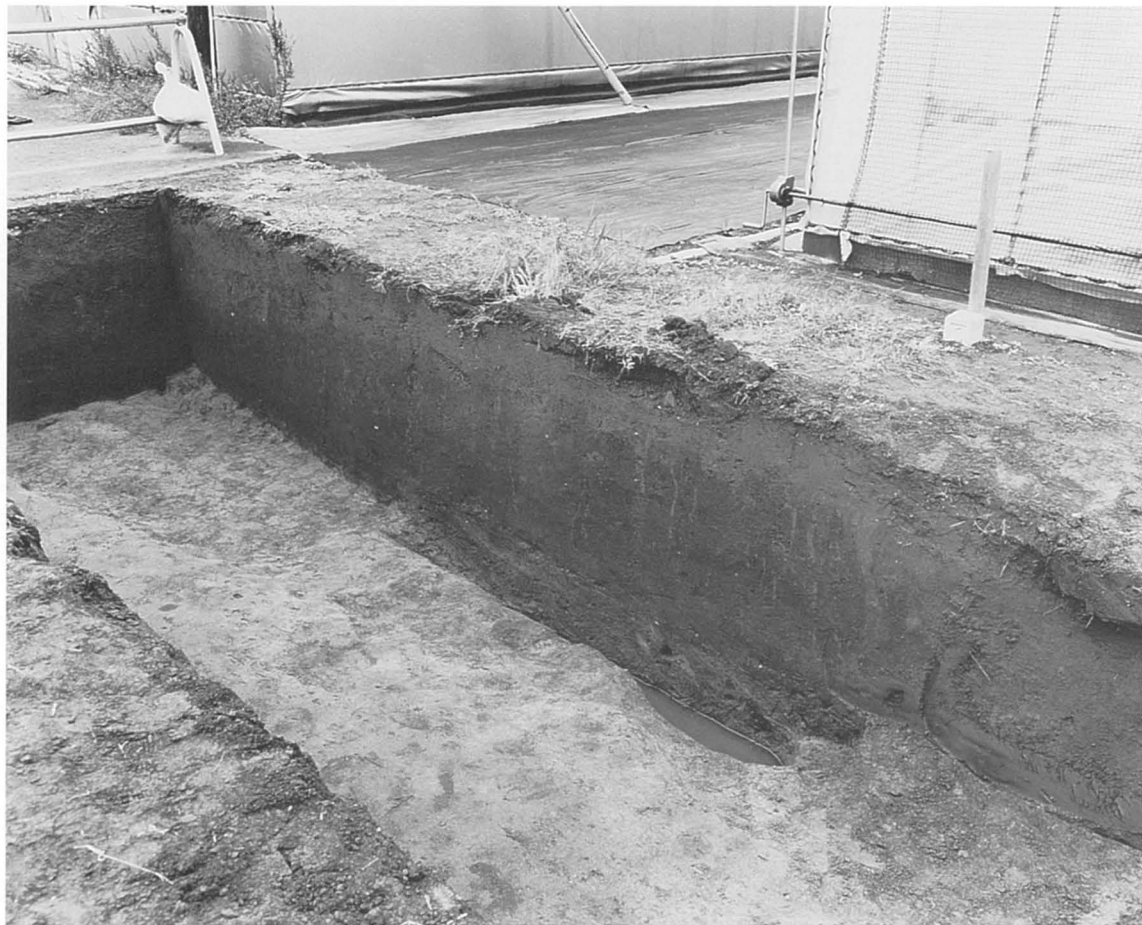
4. 1 a トレンチ完掘状況（北から）



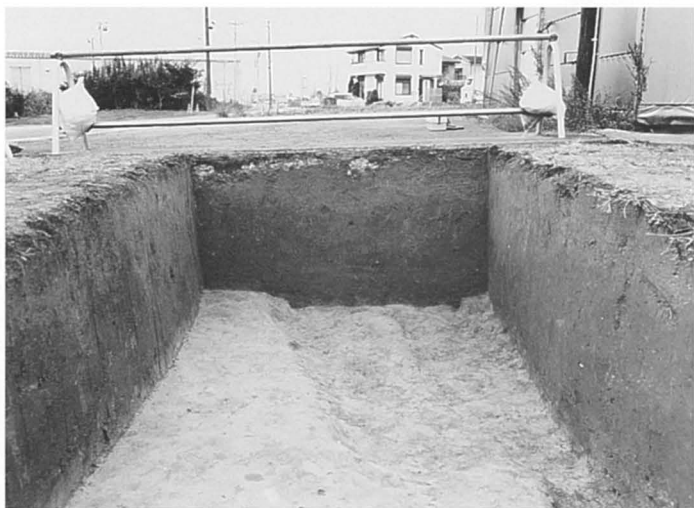
1. 5SD005 検出状況 (北西から)



2. 5SD005 完掘状況 (北西から)



1. 5SD005完掘状況 (南東から)



2. 1cトレンチ北西壁 (南東から)



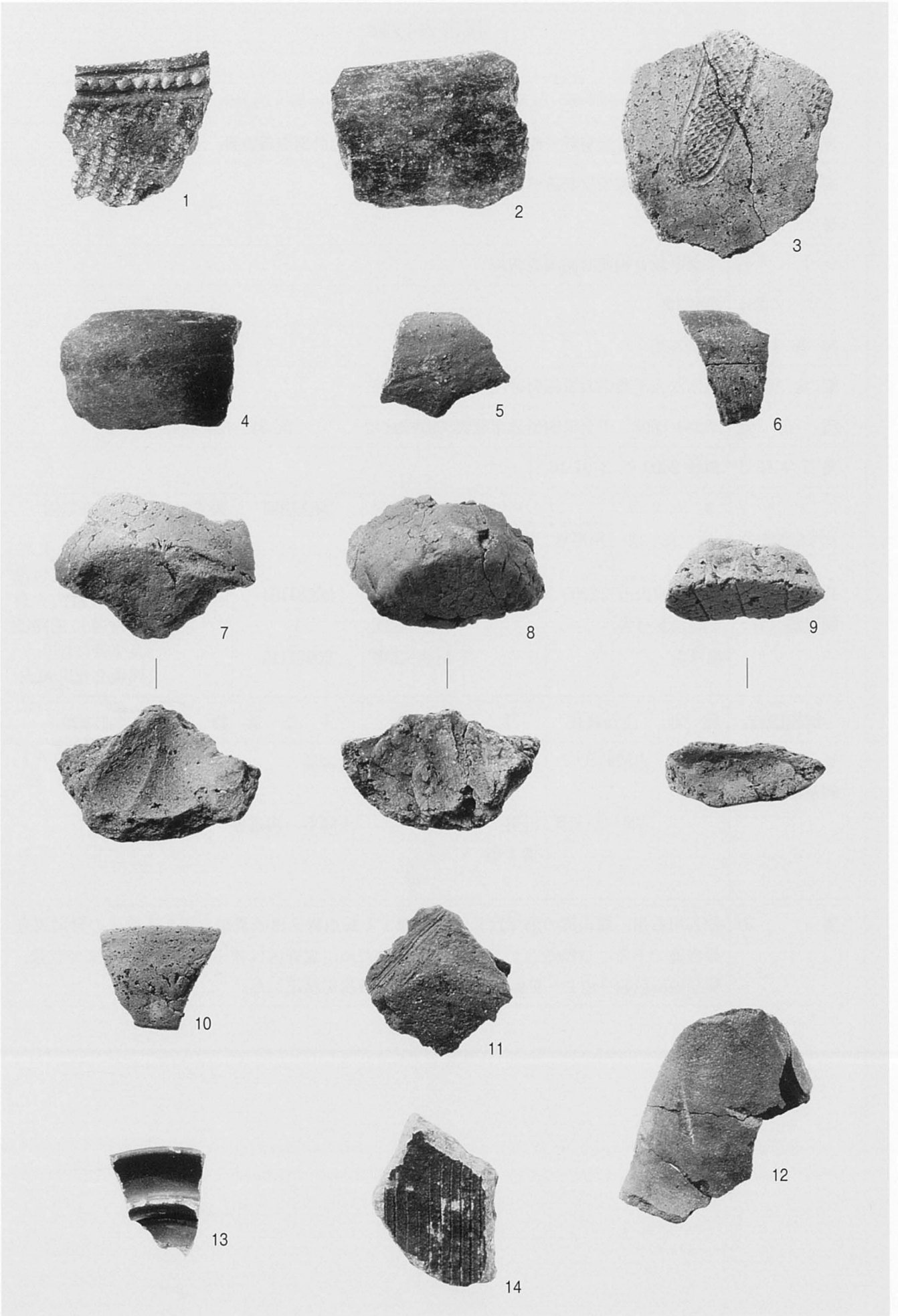
3. 1bトレンチ北西端 (南西から)



4. 2トレンチ完掘状況 (南東から)



5. 3トレンチ調査風景 (南東から)



1. 出土土器類

報告書抄録

ふりがな	ちほうどうろこうふきんいたく（たてやまおおぬきちくらせん）まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	地方道路交付金委託（館山大貫千倉線）埋蔵文化財調査報告書							
副書名	館山市長須賀条里制遺跡（5）							
巻次	2							
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告							
シリーズ番号	第623集							
編著者名	半澤幹雄							
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団 文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2 TEL 043-424-4848							
発行年月日	西暦 2009 年 3 月 16 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
ながすかじょうり 長須賀条里 せい 制遺跡（5）	ちばけんたてやまし 千葉県館山市 しもさなぐら 下真倉36-1番 地ほか	12205	002-5	34度 58分 48秒	139度 52分 20秒	20081104) 20081115	517㎡	地方道路交付金 委託（館山大貫 千倉線）道路改 良事業に伴う 埋蔵文化財調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
長須賀条里 制遺跡（5）	生産遺 跡	古墳時代 古代～中・近世	溝2条 畦畔1条 溝1条		土師器 土師器、陶磁器		粗造土器が出土し た。	
要約	汐入川右岸、館山湾の海岸段丘上に立地する長須賀条里制遺跡の第5次調査の発掘調査報告書である。道路改良事業に伴う調査のため、調査区は狭小であるが、縄文時代後・晩期の海岸線（沼Ⅱ～Ⅲ面）、古墳時代後期の溝を検出した。							

千葉県教育振興財団調査報告第623集

地方道路交付金委託(館山大貫千倉線)埋蔵文化財調査報告書 2

－館山市長須賀条里制遺跡(5)－

平成21年3月16日発行

編 集 財団法人 千葉県教育振興財団
文化財センター

発 行 千 葉 県 県 土 整 備 部
千葉市中央区市場町1-1

財団法人 千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の2

印 刷 株式会社 エリート情報社
[印刷出版局]

成田市東和田415番地10
